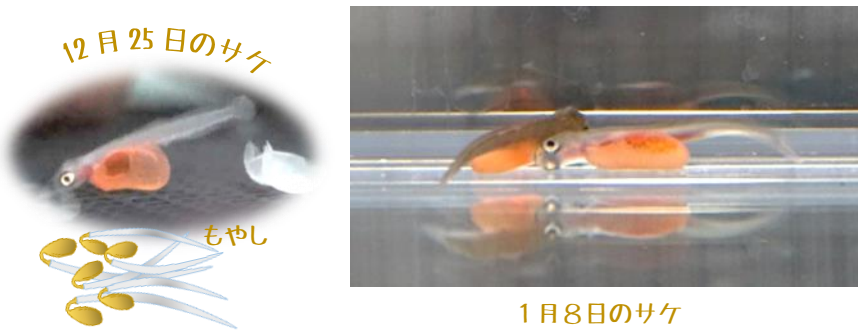


2021年1月8日(金)

ふ化から約2週間たちました

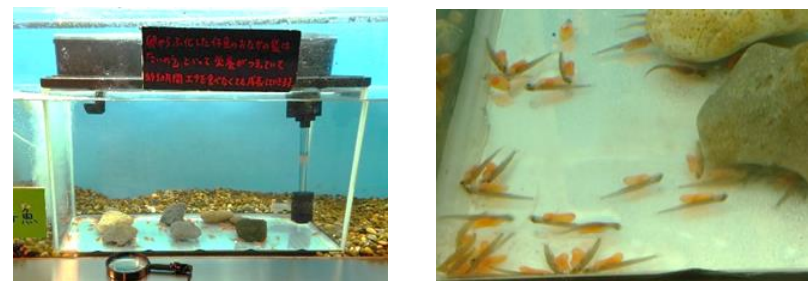
卵からでてきたばかりのサケは、もやしのような体でしたが、2週間たつとすこし魚らしくなってきました。水温は8℃にしています。



2021年1月10日(日)

動物園のサケたち

動物園のサケたちも水温が8℃なので、私たちのサケと成長が同じでした。(水温が低いと成長は遅くなります)



動物園のサケたちを見たい方は、ほっきょくぐま館のプールの奥にある手書きの看板を見つけてください。



イラストがいいですね
水中で遊んでいるホッキョクグマに
ついつい見入ってしまいます。

2021年1月20日(水)

幼稚園のサケたち

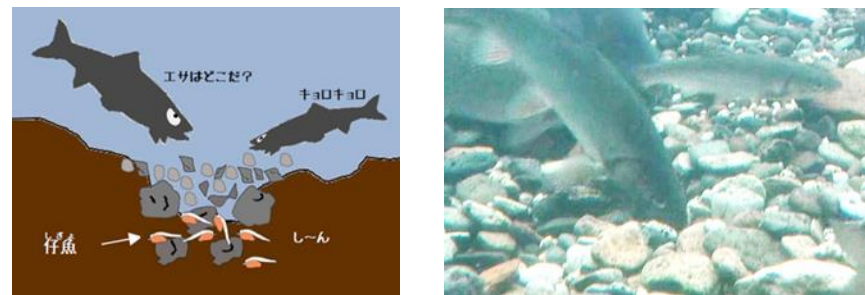
お腹のオレンジの袋が目立たなくなりました。まだじょうずに泳げないので石のすきまに隠れています。



12月28日のサケが

こうなりました

川で生まれたサケもほかの生きものに食べられないよう、幼稚園のサケと同じように石の下でじっとしています。



サケのお母さんは石の下に卵を産むので、サケの子どもたちはふ化してもしばらくその中にいます。

砂利の中に頭をいれてサケの卵をさがすウグイ。どちらも生きるために一生懸命です。



外なので、太陽の光がはいらないようカバーをしています。

教育大学附属旭川幼稚園では建物の外にある水槽でサケを育てていますが、どんなに寒い日でも、ヒーターが入っているので水温を8℃くらいに保つことができます。

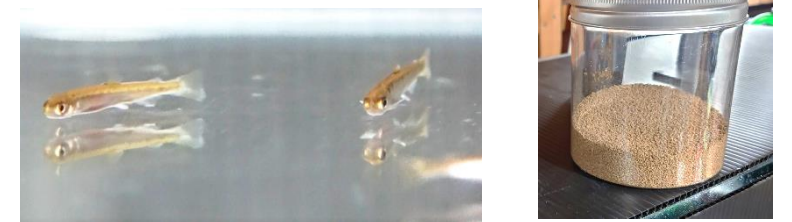
なぜ8℃にするかというと、サケのために一番良い温度だといわれているからです。

2021年1月29日(金)

泳ぐようになりました

石の間にはさまるように隠れていたサケたちも水槽の底を、這うように泳ぐようになりました。

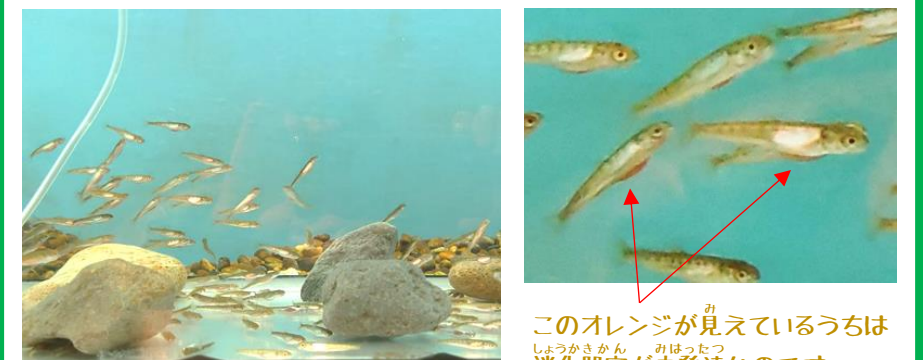
エサを探しているのかも知れませんが、まだ袋が残っているうちはエサを消化できないので、浮上して泳ぐようになるのを待ちます。



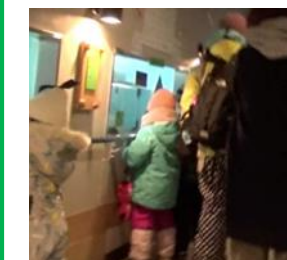
サケのエサはペットショップでは売っていないので取り寄せています。

旭山動物園では浮上して泳ぐサケも見られるようになりました。

まだお腹がふくらんでいますが、もう少しでエサが食べられるようになりそうです。



このオレンジが見えているうちは消化器官が未発達なのです。



サケの水槽の前ではたくさんの人が足を止めていました。

旭山動物園の公式ツイッターで動画が見られます。



<https://twitter.com/asahiyamazool>